

開催地名：三重県津市	
開催日時	令和元年 12 月 20 日（金） 14：00 ～ 15：30
開催場所	美里社会福祉センター
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織 約 100 名
開催経緯	近年大きな災害が起こっていないため、住民の災害に対する危機意識が低く、防災訓練の参加率が低下している。また、自主防災組織の活動内容や、要支援者への対応方法など、学びたい事例が多く存在するため、今回の語り部講演をきっかけにして積極的な活動を目指したい。
内容	<p>（１）住民主体の地域防災</p> <p>私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成 18 年より、地元仙台市太白区茂庭台 5 丁目町内会の防災統轄をつとめている。私が町内会の防災統轄をつとめるようになってから、まずは「想定」以上の備えを積み重ねてきた。それは「最悪の事態を想定」しておけば、様々な事態に対して地域として対応ができるはずだからである。地震に限らず、他の大規模災害についても同様だと思っている。だからこそ、それに耐えうる「想定」以上の備えが必要になる。従って、地域の方々には「想定外」というのは通用しないということを常々伝えている。</p> <p>私たちの地域は平成 18 年から、5 年間の計画で災害に備えてあらゆる準備をしてきた。まずは「防災マップ」の作成、次にマニュアル本の作成。さらには「自主防災組織」も作り、そして、防災の勉強会の実施を経た上で、防災訓練まで行った。そして、定期開催の防災訓練では、普段自宅や地域にいる大人や高齢者、小学生の子供を中心に行った。なぜなら働いている大人の方々は、平日は地域に居ないケースが多いうえ、職場や現場等の復旧に駆り出されてしまい、当てにできないからである。また、地域内の介助者として、元医師、看護師、福祉保健士、学校の先生等だった方々を募り、災害発生時の協力を約束してもらったこととした。</p> <p>（２）避難所の実際</p> <p>避難所の内容は場所によって全て異なる。（一時避難場所、地域指定避難場所、広域避難場所、福祉避難場所等）基本的には他所の方が「地域指定避難場所」には行ってはいけないことになっていて、あくまでも地域の方々が優先ということになる。</p> <p>また、避難所では小・中学生にある程度の役割分担をさせることにより、喜んで、そして迅速に動いてもらえるので、避難所の対応や運営が良い方向へ行く。そして、結局は地域ぐるみの日頃の積み重ねが、いざというときには非常に役立つ。是非避難訓練時より心掛けていただければと思う。</p>

さらに、避難所の中では、まずは様々なトラブルが起こらないように避難所内のスペースを地域毎に区分けした。具体的には出入口を1カ所にして人数を把握しやすくし、さらには高齢の避難者がくつろげるスペースを部屋の両サイドの壁際に設けた。こちらも是非お勧めしたい。

(3) 最後に

避難所の運営は地域町内会、自治会の役割で、その避難所におけるルール設定については地域住民全員が認識しておかなければならず、地域と学校が一体になることが最も重要であると思う。

さらに、災害に備えて、皆さんには以下3点をお願いし、今まで以上に、日頃からの防災・減災に対する取り組みを継続していただきたいと思う。

- ・ 家族間での災害発生時の安否確認や連絡方法、非常用持出品についての確認
- ・ 自宅の耐震、家具の固定
- ・ 非常用の備蓄（ローリングストック法）

特別なものを用意するのではなく、普段の生活に組み入れながら、常にある程度蓄えておくことを心がける。



開催地より

震災前から住民主体の地域防災活動がしっかり行われていたこと、そして具体的な活動内容についてわかりやすくお話いただいた。非常に興味深く聞くことができた。また、とても参考になるお話だった。